

2021年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2022/9/24

団体名	NPO法人Paka Paka		活動タイトル	自閉症の困り感へのICTを活用した研修システム		
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）				■ 活動風景		
●望ましい社会状況（ビジョン）	自閉症児に必要な発達支援とは、簡潔に述べると周りの環境を整え、子どもとその環境との相互関係によっていい学びを促進すると言われている。言わば、子どもの周りの環境（保護者、支援者・支援機関等）がどのように適切に関われるかが重要だと思われる。そこで、自閉症児に関わる保護者、支援者等に有効な学びを提供することにより、自閉症児が成人しても本人の力が発揮できる社会になることが望ましい。			ZOOMでの実践 発表風景	 <p>研修の最終日に各自の取り組みを発表する機会があるがその1場面</p>	
●団体の社会的役割（ミッション）	当団体は自閉症児に効果が有効だと言われている応用行動分析学（心理学の一種）を専門として個別・小集団での支援を行っている。科学的根拠として個別や小集団で行った方が効果的な反面、それを日常生活・社会に応用していく仕組みが必要である。そこで、当法人に関わる自閉症児が関わっていないに関わらず保育園・支援機関等や保護者を間接的に支援を行うことにより、将来的に自閉症児にも還元されることが予測される。					
●団体の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> ●望ましい人的資源：自団体・地域の支援機関に対し、支援方法を提案したり他機関に伝達・共有できる・一緒にプログラムの修正等に参加できながら関係機関とネットワークが構築できる人材。 ●望ましい物的資源：各機関でPC等で研修が受けられるネットワーク環境。研修に参加できる機関が福祉機関のみならず、学校・学童保育など自閉症児が在籍している機関が増える。行政・関係機関との町の福祉ビジョンを共有するネットワーク ●望ましい活動資金：行政が予算化して各事業所が少ない負担で研修を受けたり、プログラムの精査・講師育成のための資金の確保。 ●ナレッジ：ICT等を活用した先進的な研修プログラムやコンサルタント実践 					
■ 活動報告		■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)		研修プログラム	 <p>YouTubeでの事業所職員に向けたミニ講座</p>	
<p>初年度は、個人に対する研修から始まり、2年目で組織に対する研修として先行事例を参考に「困り感への行動支援研修」と題して行政の補助を一部受け試行的に研修を行った。そして3年目では本格的に自立支援協議会と共催と言う形で実施してきた。2市3町の自立支援協議会の関係者の協力の元、2市3町以外の事業所も参加出来るように県内に広く告知してきた。</p> <p>そのかきもあって、2市3町以外の事業所を含め10事業所が参加し、効果測定においても昨年同様に事業所の職員の知識の向上や問題行動の軽減などの結果が見られた。その反面、2市3町は今まで地域課題として認識してきたが、それ以外の町では地域課題として認識出来ていない傾向が強く、地域課題に上げるには上部の組織（知多圏域での広域の会議）で議論してもらう必要がある。現在そこまで確実なネットワークが構築出来ていないので、地道に2市3町での研修として積み上げて行く必要があると思う。</p> <p>なお、通信講座は思うような集客に繋がりにくかった。大手が似たような通信講座を行っているのでより差別化を協調した広報が必要と感じた。</p>		<p>今回の研修では10事業所参加・3機関以上と共有しながらの体制作りや、研修の効果としてKBPA（知識の向上）ABC-J（問題行動の軽減）を効果測定として取り入れ、研修前、研修後と図っていった。</p> <p>結果としては体制作りとしては3機関以上とのつながりも持ち、10事業所が研修に参加してもらえた。また効果測定としてもKBPAでは1.4点の上昇、ABC-Jでは33点の減少が見られどの項目でも想定以上の達成ができた。</p> <p>数字の目標以上に、自立支援協議会内での議論や関係機関と協働した学びとして地域としても効果も高かったと思われる。</p> <p>その反面 当初の達成目標としては達成できたが、北部との行政の地域課題の共有がうまくいかなかった。2市3町では議論の土台があったが、北部では議論の土台がなかったため、合意形成がしにくい点があった。</p>				
■ 事業を通じて得られたノウハウ		■ 望ましい社会状況を達成するための課題		■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）		
<p>今までの研修は、自法人が企画するものであり、関係機関等の地域を巻き込む形ではなかった。しかし、本事業で助成金を3年間活用し、個人だけではなく事業所・地域全体に対する研修プログラムの構築ができた。</p> <p>また、2市3町の自立支援協議会とは関係者という形で関わって来たが、この研修を各2市3町に提案してきたことにより、地域課題の解決方法の1つとして地域の中で議論できたことは2市3町にとっても有意義な物だと思われる。</p> <p>研修に関して直接関わることはなかったが知多半島の北部（2市3町以外）の関係者と情報を共有し緩やかなネットワークも構築できてきた。</p> <p>また、研修プログラムを参考にした先行事例の東京都社会福祉協議会や鳥取大学の学識経験者と関わりを持ってたり、今回の研修をSNS等で知り、関東の関係団体と情報交換ができ、県の枠を超えて知り合った縁は何者に変えられない財産だと思う。</p>		<p>3年間をとおして、地域課題の解決方法の1つとしてアプローチ方法としてできたが、現在は意識の高い事業所の参加率が高い。今後はどの事業所も1回は参加し、地域の中の価値観を共有していく必要があると思われる。</p> <p>研修に参加する事業所は質をよくすることで、利用者の生活の質を向上しようとするが、研修に参加する意識が低い事業所は、利用者の質より、事業所としても採算に価値観を置きやすいと思われる。</p> <p>そのため、どの事業所も参加できるような仕組みや参加することで事業所にメリットがあると思ってもらう仕組み作りが必要だと思われる。その一貫として、9月以降に開催する『困り感への行動支援研修』において認証制度を取り入れ、地域課題を可視化していくと同時に、事業所のメリットを地域に示していきたいと考える。</p>		この1年間の活動を通じて	自閉症児の困った行動に対する研修の定着	を達成しました。
				■ 受益者の具体的な変化（自由記入）		
				<p>子ども：事業所内で落ち着いて過ごせるようになった。</p> <p>地域：地域課題の1つとして議論し、解決する糸口を作るきっかけになった。</p>		